

Kanayamachi Rakuichi

金屋町楽市 in さまのこ 芸術文化学部地域連携プロジェクト

富山大学芸術文化学部教授 伊東 順二



開催概要

高岡鋳物発祥の地・金屋町全体をミュージアムに見立てて工芸作品の展示・販売を行う「金屋町楽市inさまのこ（以下楽市）」は、今回3回目を迎えましたが、毎年、新たな魅力づくりを行うために、2回目から年度テーマを設定し、今年度は『花鳥風月・技』としました。

このテーマを元に大茶会では、「花」「鳥」「風」「月」の席を設けて、それぞれの趣を表現し、中でも金森藤平家では、当日の朝に刈り取った稲穂とアルミブロック「ポリゴニウム」を組み合わせて、平成22年7月末に開催された「かなざわ燈涼会」の「花の茶席」を再現しました。

35歳以下の若手作家を対象とした顕彰「金屋町楽市賞」は、2回目を迎え、初年度に増して力の入った作品が並びましたが、楽市賞に輝いた小曾川瑠那氏のガラス作品は、繊細なガラスの質感で花のはかなさが見事に表現されていました。また、古い町並みを和服姿で楽しむイベント「きもの通り」では、帯の結び目をすべて花模様にしたファッションショーが開催され、来場者を驚かせました。

シンポジウムは、高岡出身の美術商・林忠正の業績を切り口に「林忠正に見る日本工芸の未来III『21のジャポニズム』」として開催しました。「フランスに渡った蜻蛉たち」と題した高階秀爾氏による基調講演では、1885年にジュディット・ゴーチエがパリで出版した蜻蛉集（せいれいしゅう）という詩集などを事例として、当時のパリでジャポニズムがいかに大きな影響を与えていたかについて解説がなされました。

続いて行われたパネルディスカッションでも、宮廻正明氏が法隆寺金堂壁画から漫画のコナンまで、さまざまな目の描き方から、日本的視点の特質について解説され、深井晃子氏は、絹織物で有名なりよんの製品に西欧では描かれてこなかったツバメが登場することから、ジャポニズムの影響がよく知られている印象派の画家達だけに留まっていなかったことなどが紹介されました。

その後、高階氏を交え、実行委員長である本学部・伊東順二がコーディネーターとなってディスカッションが行われましたが、パネラーからはジャポニズムで西欧が目したポイントのひとつが「生活の中の芸術性」であり、楽市はまさにそのことの再生を目指す取り組みであるとの評価を賜りました。

翌19日には、二つの分科会が行われ、神妙寺会場では、本学部・貴志雅樹がコーディネーターとなって「高岡クラフトコンペの次世代ビジョン」をテーマに、・コンペを魅力的に維持するための工夫、・作品の創作性と販売力のバランス、・工芸作家が生き残っていくための人づくり、などの視点から議論が行われました。高岡クラフトコンペ受賞者を対象に行われたアンケート調査も合わせて、・広報活動に一層の努力が必要であること、・審査に生活者の視点が求められること、・交流が重要であり楽市を発表の場として活用すること、などが重要であることが評議されました。

北陸予防医学協会高岡総合健診センター会場では、本学部・武山良三がコーディネーターとなって「地域のものづくり+まちづくり」をテーマに議論がなされました。有田の陶芸作家・照井壮氏から有田陶器市に見られるイベントと産業振興について具体的な事例紹介があった後、楽市の今後のあり方について議論、その結果、楽市でも陶器市に見られるような参加者が自由裁量で行える範囲を拡大させていくこと、高岡全体のイベントとして関係者との連携が不可欠であること、などが提言されました。

楽市は、平成23年3月に「第15回ふるさとイベント大賞・奨励賞（財団法人地域活性化センター主催）」を受賞しました。高岡市周辺においても各イベントメディアに掲載されるなど認知が進んでいます。一方、分科会等を通していくつかの課題も見えてきました。今後は、楽市が大学と地域連携のモデルケースとして位置づけられるよう、実施体制や、各取り組みの進化を自治会、行政と共に進めて行く予定です。



基調講演講師
高階 秀爾
 Shuji Takashina
 大原美術館館長
 東京大学名誉教授
 西洋美術振興財団理事長



パネラー
宮廻 正明 氏
 Masaaki Miyasako
 日本画家
 東京藝術大学大学院教授
 (文化財保存学保存修復日本画)



パネラー
深井 晃子 氏
 Akiko Fukai
 京都服飾文化研究財団理事、
 チーフキュレーター



コーディネーター
伊東 順二
 Junji Ito
 金屋町楽市実行委員長
 富山大学 芸術文化学部 教授

主な開催内容

●シンポジウム

実施日 : 平成22年9月17日(金)
 午後6時30分～午後8時30分
 会場 : ウイング・ウイング高岡
 テーマ : 「林忠正にみる日本工芸の未来 III
 『21世紀のジャポニスム』」

基調講演

講師 : 高階 秀爾
 パネルディスカッション
 パネラー : 高階 秀爾、宮廻 正明、深井 晃子
 コーディネーター : 伊東 順二
 参加人数 : 約350人

●分科会

○貴志雅樹 分科会

実施日 : 9月18日(土)
 午後6時30分～午後8時
 実施会場 : 神妙寺
 テーマ : 「高岡クラフトコンペの次世代ビジョン」
 メインゲスト
 ・大樋 年雄(陶芸家、大樋焼き11代)
 ・桐本 泰一(輪島キリモト・デザインプロデューサー)
 ・相川 繁隆(金沢卯辰山工芸工房館長補佐)
 ・高川 昭良(高岡市デザイン・工芸センター所長)
 ・名田谷隆平(富山ガラス工房企画開発プロデューサー)
 コーディネーター :
 ・貴志 雅樹(富山大学芸術文化学部教授)
 参加者 : 約30人

○武山良三 分科会

実施会場 : 北陸予防医学協会高岡総合健診センター
 テーマ : 「地域のものづくり+まちづくり」
 メインゲスト
 ・照井 壮(有田/陶芸家)

Zone Museum

工芸 × 生活 × 産業が同居する空間の再生



- ・ 國本耕太郎（高岡伝統産業青年会平成22年度会長／高岡漆器）
 - ・ 神初 良子（鋳物工房利三郎）
 - ・ 小森はるな（富山大学芸術文化学部 学生委員）
- コーディネーター：
- ・ 武山 良三（富山大学芸術文化学部教授）
- 参加者 : 約30人

● 作家交流会

- 実施日 : 9月18日（土）午後8時30分～午後10時
実施会場 : 宗泉寺
参加者 : 約80人



「高岡クラフトコンペの次世代ビジョン」をテーマとした貴志雅樹分科会

● 金屋町楽市ゾーンミュージアム

- 実施日 : 9月18日（土）、19日（日）
午前10時～午後5時
実施会場 : 高岡市金屋町石畳通り周辺
来場者数 : 2日間で約23,600人
作品展示・販売
出展者 : 113名
作品総数 : 約3,000点
売り上げ : 1,592,244円



「地域のものづくり+まちづくり」をテーマとした武山良三分科会

● コンペティション「第2回金屋町楽市賞」

- 対象者 : 18歳～35歳の作家45人
審査員 : 伊東順二、貴志雅樹、武山良三、
相川繁隆、高川昭良
審査結果 : 金屋町楽市賞 小曾川 瑠那（ガラス）
審査員特別賞 松田 明德（金属）
審査員特別賞 森 和彦（陶芸）
審査員特別賞 時澤 真美（ガラス）



第2回金屋町楽市賞を受賞した小曾川瑠那氏の作品



● 金屋町大茶会

実施日 : 9月18日(土)、19日(日)
午前10時～午後4時30分

席名(主催)・場所

「花の席」 於:金森藤平家、席主 伊東順二

・展示—かなざわ燈涼会の「黄の茶席」の再現
(協力 藪内流・池坊 工藤社中)

「鳥の席～籠～」 於:小泉家、席主 シンプルシティ

・一般茶席—時間指定整理券発行
(協力 裏千家 小泉宗昇)

「風の席」 於:大寺家茶室、席主 藪内流 工藤泰子

・招待茶会(18日11:00～14:00)

・展示(18日の招待茶会終了後)

「月の席」 於:黒谷家、席主 裏千家 般若陽子

・一般茶席—整理券発行
(協力 金屋町婦人部)

KUMA Café by 藪内流 於:藤田家車庫

・点出し

(協力 藪内流 工藤社中)

「一客一亭」 金屋町地内5箇所

来場者 : 約810人(一客一亭を除く)



シンプルシティが空間デザインを行った小泉家の「鳥の席～籠～」



藤岡敦子氏の着付けにより帯の結びでさまざまな花が表現された

● 金屋町きもの通り

実施日 : 9月18日(土)、19日(日)
午前10時～午後4時

実施会場 : 金屋町石畳通り

参加者 : 和装モデル106人、貸衣装利用者約10人、
着物姿の来場者多数在り

● 楽市塾 金屋町式和の指南所

実施日 : 9月19日(日) 午前10時～午後3時

実施会場 : 宗泉寺

参加者 : 約70人



準備から運営、片付けに至るまで多数の学生ボランティアが活躍した

Zone Museum

工芸 × 生活 × 産業が同居する空間の再生



● 食のイベント

実施日 : 9月18日(土)、19日(日)

午前10時～午後4時30分

実施会場 : フジチュウ駐車場、鑄物資料館第三展示室

出店者

- ・ 鑄物資料館：ぜんざい、コーヒーの販売
- ・ 三角公園 : きき酒
- ・ フジチュウ：新大仏焼き、伊料理、蒲鉾、黒ゴマアイス他

● 鑄物づくり体験

実施日 : 9月18日(土)、19日(日)

内容 : 高岡伝統産業青年会による鑄物づくり



富山ガラス工場の硝子製おちょこを購入すると楽しめるきき酒

● 土産物認定

実施日 : 9月18日(土)、19日(日)

内容 : 金屋町等の12店舗の商品を認定

● 瓦版の発行:

実施日 : 9月17日(金)、18日(土)、19日(日)

発行回数 : 6回



高岡伝統産業青年会による鑄物づくり体験

● さまのご寄席

実施日 : 9月20日(月・祝)午後7時～午後8時30分

会場 : 宗泉寺

出演者 : 三遊亭遊馬(落語)、神田蘭(講談)

参加者 : 約190人

● 楽市塾 金屋町まぢめぐりツアー

実施日 : 9月11日(土) 午前9時30分～午前11時30分

集合: 金屋緑地公園

金屋本町にあるキューポラ跡や鑄物工場の見学及び町家内での金屋町の歴史・生活様式の説明

参加者 : 26人



プレプログラムとして開催された金屋町まぢめぐりツアー



金屋町楽市 in さまのこ 花鳥風月・技

【開催期間】 平成22年9月18日・19日

【来場者数】 23,600人

【主催】 金屋町楽市実行委員会

[委員長・プロデューサー] 富山大学芸術文化学部
教授 伊東順二

[副委員長] 富山大学芸術文化学部 教授 貴志雅樹

[副委員長] 富山大学芸術文化学部 教授 武山良三

[副委員長] 金屋町自治会自治会長 加藤昌宏

[委員]

富山大学芸術文化学部 講師 横山天心

隈研吾都市建築設計事務所 代表：隈研吾

金屋町自治会：般若陽子/新保智子

富山ガラス工房 館長：野田雄一

金沢卯辰山工芸工房 館長補佐：相川繁隆

茶道家 藪内流：小久保瑛子

高岡市観光協会 事務局長：竹下直之

高岡市商業観光課 課長：青島恒巳

高岡市生涯学習課 課長：蒲田政裕

高岡市デザイン・工芸センター 所長：高川昭良

[学生委員]

富山大学芸術文化学部：石黒涼太/古川光太

/三上恵理華/橋本千夏/小森はるな/帯刀玲

香/小出佳美

【事務局】 高岡市産業振興部商業観光課/高岡市観光協会

【後援】 総務省/富山県/隈研吾建築都市設計事務所/
株式会社北日本新聞社

【協賛】 三協立山アルミ株式会社/トナミ運輸株式会社/
三芝硝材株式会社/アクタス富山店/高岡伝統産業青年会/和楽庵/学校法人白井学園/
藤岡敦子礼法きもの学院

【出展者】 招待作家：荒木寛二/今泉今右衛門/大澤光民/
大樋年雄/緒方慎一郎/岡野博一/川瀬隆一郎/桐本泰一/
隈研吾/黒田昌吾/小泉誠/釋永陽/城谷耕生/
須藤真美子/高瀬竜一/照

井壯/鳥田宗吾/中田博士/中村信喬/野田雄一/
橋本夕紀夫/畠春斎/見澤道子/森岡希世子/
山下郁子/吉岡徳仁

公募作家：有永浩太/飯尾豊/池本直子/伊勢貴俊/
魚屋とも子/円戸智/加藤重美/北湯口心/
小林夢狂/斉藤寿美子/沢越孝子/柴田祐子/
高橋朋子/坪内剛生/寺下健太/中園義光/
夏田つる子/花嶋伊都子/福田昭一/
藤田徳太/前田秀子/牧野倫久/森明宏/
森和彦/森信博/安井恵子/山本愛子/鎌田英樹/
吉田満利子

金沢卯辰山工芸工房：相川繁隆（作品監修）/
植埜貴子/内山真由美/河野迪夫/木村夏海/
切中優希子/黒田沙知子/小曾川瑠那/
小西明日香/高木基栄/玉置久実/鶴林舞美/
野口健/藤掛幸智/マセドマウリシオ/
松田明德/三原愛子/山岸紗綾

富山ガラス工房：野田雄一（作品監修）/岩瀬
明子/大山隆/小幡和香奈/小柳津周子/加護園/
梶原朋子/金津沙矢香/岸本耕平/久保裕子/
小島有香子/古城祐美/佐々木俊仁/佐野猛/
篠崎恵/小路口力恵/竹本亜紀/津坂陽介/
時澤真美/豊岡伸安/中村敏康/西山雪/
藤井友梨香/森康一郎/和田修次郎

高岡市デザイン・工芸センター：高川昭良
（作品監修）/内島正雄/モメンタムファクトリー
Orii（折井宏司）/川原隆邦/斉藤慎二/
嶋田数男/SHIMOO DESIGN/中山裕晃/
畑勝日佐/林康之/般若泰樹/武蔵川義則/
山本瑞生/鷲塚かおる/鷲塚貴紀

【企業展示】 アクタス富山店/高田製作所/ナガエ/能作/二上

【展示器協力】 三協立山アルミ株式会社/三芝硝材株式会社

【食のイベントコーディネーター】 森藤正浩